

# BALL TEST DATA

【セールス資料】

BALL NAME: "MAXIMUM THEORY"

COLOR:SOLID : Two Tone Red / Black

COVER STOCK:INSIGHT SOLID REACTIVE

RG : 2.49 (MED-LOW) ΔRG:0.058(HIGH)

FACTORY FINISH: 1500 Polished

TRACK FLARE POTENTIAL : 7+(HIGH)

BACK END:20 (1-20) MAX LENGTH : 16 (1-20)

O	LONG		◎	
I	MEDIUM		◎	
L	SHORT		◎	◎
		Light	Medium	Heavy

適正レーンコンディショニンググラフ

【MEDIUM HEAVY OIL 編】

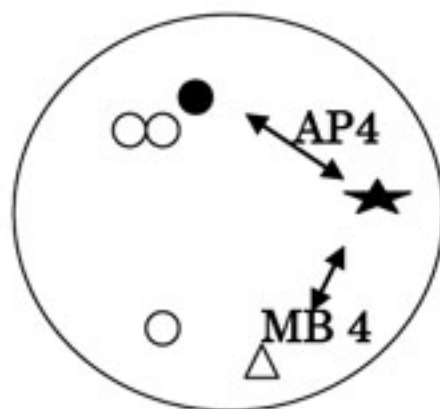


平成 23 年 2 月 8 日

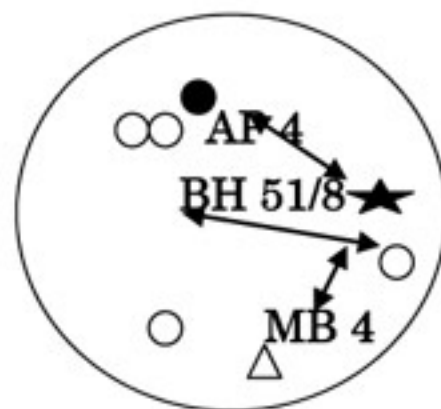
レイアウト例

INFINITE

MAXIMUM



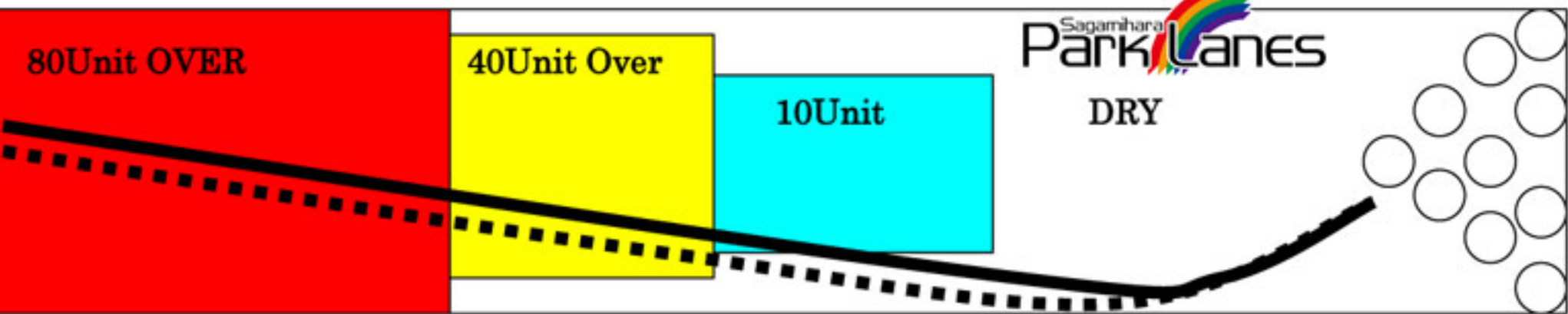
CA52 度



CA52 度

フラー幅 最大 63/4 ・ 間隔 1/8

最大 6 3/4 ・ 間隔 1/8



OF 15F MAXIMUM 37F INFINITE 40F

【レーン状況】 ベースメンテナンスはツインスター。15F まではスプレーでオイルを増量し 80 ユニット以上。オイル距離は 37F までのオイリーな設定。バックエンドは手拭きで仕上げドライ。

【製品比較表】

曲がり度	1	2	3	4	5	曲がり方	アーク	1	2	3	4	5	シャープ
スキッド	1	2	3	4	5	オイルの強さ	1	2	3	4	5		
ピンアクション	1	2	3	4	5	テスト品	○						比較品 △

\*上記の数字は、1側が少ない(短い・弱い) 5側が強い(大きい・長い)

【ボール総合評価】

セオリーも世界的ヒットから早 3 作目。オイルに非常に強い初代に対して 2 作目は転がり感を重視。新作のマキシマムはソリッドカバーで登場。行き足は良く、バックエンドまで転がり感を維持、コントロール性能がアップ。もちろん前作同様ピンアクションは目を見張る物があります。表面処理を変えることで様々なレーンへの対応も可能です。

【ここがポイント】 今回のセオリーも非常にボールバランスが良いですね。手前のスムーズさ・転がり感・キレ・操作性の高さと何処を取っても文句の付け様がありません。自信を持って薦められます。また箱出しの表面加工に対して 2000 番アブラロンでサンドすると、バックエンドのキレは失わずオイルに強い製品に化けてくれるので適用レーンの幅広さも気に入っています。またピンアクションが素晴らしいですね。やはり転がり感の強い製品はピン飛びが気持ち良いほど派手ですので投げていて良い気分にもなります。



発売予定 : 2011 年 4 月中旬予定 販売予定価格 ¥45,000 テスト協力センター : 本八幡ハタボウル

テスター 石原 章夫プロ【HIGH SPORTS ボールテスター】/松谷 俊二【ハイ・スポーツボール開発部】

